



学校法人
浪速学院
<http://www.naniwa.ed.jp/>

浪速高等学校
浪速中学校

本校の歴史その27:「第5代平石芳太郎校長」

No.37 木村理事長・学院長 平成25年度公式メッセージ
(平成 25 年 5 月 12 日アップ)



本校の歴史その27
「第5代平石芳太郎校長」





- ・ 昭和19年4月30日から続いた4代松岡万次郎校長の時代は昭和37年3月2日、現役校長のままで逝去された時点で終わった。記録にはないが教頭であった平石芳太郎先生がすぐ5代目校長に就任されたと思う。校長事務取扱者の就任がないからである。年史では昭和38年から平石校長が始まっている。
- ・ 何時の時点で平石先生が教頭に就任されたのか分からないが19年続いた松岡校長の補佐役として、この間に平石先生は教頭職に就かれたのだろう。とにもかくにも平石時代が始まったのである。この平石時代は昭和42年度まで続く。通算5年間という比較的短い期間であった。
- ・ このように前任者が長くその職にあると後継者が引き継ぐ期間は相対的に短い。しかし平石校長の存在感は群を抜いて高く、私はこの平石時代に浪速学院は頂点を極めたと感じている。第5代校長、平石先生は歴代の校長に劣ることなく素晴らしい校長であった。立派な校長先生であった。
- ・ この平石時代までの校長が創業時の校長でその後の校長は私を含めて全く異質の校長のような気がする。別グループと言っても良い。それくらい初代から5代までの校長は際立った経歴と経験と識見を有し、波瀾万丈の時代を過ごされた校長先生であったと思う。
- ・ 平石先生ほど生徒の記憶に残り愛された校長はいなかったのではないかと。40年史も50年史も60年史も平石先生のエピソードには事欠かない。60年史の紹介文は以下のようなものだ。

- ・ “創立以来40幾星霜、文字通り学園とともに生きて来られた。その間、順境に恵まれたとは言えないであろうが今日の隆盛に特筆すべき功績のあった方、表面に出る花々しいスタンドプレーは好まれず、篤実穩健、常に微笑をたたえ、故に「だるまさん」と愛称さる。文部大臣賞、勲4等褒章うべなるかな。”
- ・ そう平石先生こそ創立時の大正12年10月から奉職された。開校して5か月後のことである。最も若い教員として採用され爾来、本校一筋に勤務され教頭、校長と進んで行かれた先生であった。まさに歴史の語り部であった。
- ・ 創立以来の40年の歴史を自らの眼で持て来られているのである。室戸台風で校舎が全倒壊した時も生徒の先頭になって復旧に苦勞された。新校舎建設にも邁進された。何より歴代の4人の校長と3人の校長事務取扱者に尽くされて来たのだろう。
- ・ 就任された昭和38年は丁度創立40周年という節目の年であった。翌昭和39年年は東京オリンピックが開催され名実ともに戦後は終わった状況下に平石時代は始まった。昭和38年からの卒業生を列記してみよう。38年が高校で275名、続いて39年が一挙に増えて786名となった。その後、871、890、757、629、658、614、と続き昭和48年が648名で戦後のベビーブームによる所謂後世言われた団塊の世代が続々と浪速高校を卒業して行ったのである。
- ・ 平石時代の昭和41年一学年890名と言うのは本校の記録である。筆者が校長である平成24年度の入学者数は750名だからとてもとても平石時代の群雄の足元にも及ばないマンモス校として平石校長は活気ある楽しい時代を過ごされたのだと思う。
- ・ 就任した昭和38年は創立40周年にあたと書いたが10月4日に記念式典が催されており何とこの年、伊勢神宮の祭主北白川房子様のご名代としてお嬢様の祥子様が本校を訪問されている。内親王を挟んで宝来理事長と平石校長が写っている写真が残っているがさぞ名誉に思われたことだろう。
- ・ 神社神道の学校としてこの上ない榮譽である。この時に本校は北白川房子祭主様から御歌を戴いている。「日の本の国に生まれし 身のほまれ 励みつとめよ この学び舎に」。今では考えられないくらいの慶事であった。
- ・ 39年の東京オリンピックにおいて33年卒業の市口政光さんがローマ大会、東京大会とレスリング競技に出場し、遂に東京でゴールドメダリストとなった。本校で優勝報告会が挙行されている。現在の神社前での記念写真が残っているが、本校はオリンピックの金メダルを獲得した卒業生がいることは極めてこれまた名誉なことである。
- ・ 平石先生は「不撓」という号をお持ちの歌人でもあったのだろうか。書家でもあったのであろうか今となっては良く分からないが多くの何かにつけて歌を残されている。先生は市口さんを祝して「音に聞く 一本背負いまのあたり 金のメダルの浪速魂」と詠まれている。
- ・ 平石校長は定年だったのか、あるいは後進に道をゆずられるべく校長職を昭和42年度を持って退任された。次の校長は第6代奥原万作校長である。奥原時代は又次の稿で述べるが期間は昭和46年3月31日で退任されているからわずか4年の校長在職期間であった。故に私は平石校長は奥原校長にバトンタッチされるべく校長を辞されたのではないかと想像しているのである。
- ・ 退任された翌年の昭和45年平石校長の歌碑が神社前の杜に設置されている。この碑は私が新校舎建設の為に現在の「遊学の広場」に移設しているものだ。歌は「一すじに 心つくせし 教え草 色とりどりの花 やさくらむ 不撓」とある。裏には「昭和43年の日付で 祝勲4等 名誉校長 平石芳太郎先生 浪速学園同窓会」とある。

- ・ そう平石校長は本校で最初の名誉校長となられた。最後のエピソードを書いておこう。何と卒業生有志は平石先生に家一軒をプレゼントされているのである。これにはさすがに驚いた。遠い良き時代の事ということではなくてそれくらい平石校長は生徒に慕われたということではないだろうか。ここがすごい。
- ・ 40周年史のひとこまの記事である浪速新聞に「憩いの家竣工なる」との記事があり、小さな字であるがこれを読むといきさつが良く分かる。“平石先生憩いの家が竣工、堺市の南三国ヶ丘、瓦葺2階建て、延べ25坪、母校創立30周年事業として同窓会が企画したものである。堺の自宅が戦災で焼失し当時吹田から通われていた学校創立以来の本校一筋の平石校長の長年のご労苦に報いるべく住宅を提供しようとした同窓会運動が実を結んだものである。先生はこの時にも次のような歌を詠われている。 ”教え子の心づくしの家に住み南三国六涙にじむも」「押し照るや三国ヶ丘は錦着て憩いの家に香る木の香よ」。